

ふくろう新聞

<発行>
 ホームの郷会
 老人の保健
 養護委員会
 特別養老ホーム
 淡路支部

洲本市中川原町
 中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551

ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>



洲本市五色町
 「たかたクリニック」
 院長 高田裕先生

3月26日(土)に行われる第12回ふくろう学習会の講師
 高田先生に講演の要旨をお送りいただきました。
 地域医療を実践されている高田先生のお話です。
 時間は午後3時からです。皆様のご参加お待ちしております。
 また、高田先生には5月28日(土)に行われる淡路ふくろうの郷5周年記念式典での講師もお願いしています。

読賣新聞淡路版「人・街さんぽ」のコーナーで、
 2月20日、「中川原町」が特集され、「淡路ふくろうの郷」も紹介されました。開所から5年、地元の方々に受け入れられている証と嬉しく思いました。
 これからも中川原町の皆様と手を携えて「福祉の郷」づくりに取り組んで行きたいと思えます。

在宅死は困難か

今や、わが国での在宅死は二割以下となり、点滴などにつながれて死を迎える、いわゆる「スパゲティ症候群」のような延命医療が、終末期医療の中心となつていきます。

最大の要因は患者・家族のみならず医療者すら在宅死が困難という先入観を持っていることです。

大病院志向もあります。核家族化による家庭介護力の低下や往診医師の減少も在宅死を困難にします。

十年前に介護保険制度が始まり、在宅療養の基盤

が整備されてきました。がんの末期にも介護保険が適用されることになりました。六十五才未満のがん末期の患者も、訪問看護や、ヘルパー派遣、介護用ベッドの貸与、デイサービスやショー

ル、在宅ケアの中心を担うことになると思われます。一人暮らしで身寄りがないくても、住み慣れた家で最期を迎えることが在宅ケアの最終目標であり「決して不可能ではなくなった」と言

よく死ぬことは良く生きること

「往診活動からみえてきた地域の課題」

トステイといったサービスが利用できるようになりました。

六割が在宅死を希望

さらに二十四時間対応が義務づけられた在宅療養支援診療所制度も導入さ

えます。

六割以上の人が在宅死を希望しています。これからは、訪問看護や在宅支援ができる「かかりつけ医」による訪問診療(往診)を利用し、在宅で最期を迎える人

が増えてくることでしょう。友人や家族に見守られながら、家で最期を迎えるのが「人生で最も貴重な時だ」と思えます。

私自身年間十数人の在宅死を看取っています。その中で、家にいることが、苦痛を癒す効果につながったと思われる、安らかな死に、何度も出会いました。

家で死ぬこと

淡路では年間百八十人の方が、がんで亡くなっている。と推計されます。うち在宅死の希望者は百四十人ほどでしょう。医師一人あたり四人を受け持てば、三十五人の在宅療養支援医師が必要。数だけなら、すでに満たしています。問題は「かかりつけ医」としての医師と患者の関係が築かれて

いるかどうかということです。家で死ぬということは、人とのかわりを継続することにほかなりません。良く死ぬことは良く生きることで

医療従事者の役割

私たち医療従事者の役割は、

○医薬品によって身体的苦痛を取り除く

○二十四時間対応によって

安心感を得てもらおう

○本人を家族を支えるネット

いま一度、家で死ぬということを考えてみましょう。

ふくろうの郷にも！ 伊達直人さん ありがとう！



ふくろう新聞 5月号では、5匹のこいのぼりが快晴の空を泳ぐ様子をご紹介しますのでお楽しみに！



3月8日(火)、大きな小包が淡路ふくろうの郷に届きました。中身は「こいのぼり」。送り主はあの「伊達直人」さん！

伊達直人さんとは一体どのどなたなのでしょう。2年前からふくろうの郷にはこいのぼりが無く、入所者が残念がっていました。きつと、ふくろうの郷に心を寄せてくださっている方でしょう。

本当にありがとうございます。もう少し暖かくなったら、晴れた日の朝は入所者と職員、一緒にこの立派なこいのぼりを揚げたいと思います。

こいのぼりを揚げるポールは、地域交流会有志の方々と法人評議員さんが手作りで準備してくださる予定です。

笑顔がいっぱい★あじさい連



神戸市長田区理容組合「あじさい連」のみなさん

以前、ふくろう理髪店にボランティアでお越しくださった尾長谷丸美(おはせまるみ)さんがきっかけを作ってくだり、神戸市長田区理容組合の「あじさい連」のみなさん10名が、2月28日(月)、阿波踊りを披露してくださいました。施設での発表は今回が初めてだったそうです。

入所者にもハッピーや豆絞りを貸してください、一緒に踊ってくださいました。入所者の北川さんは



一緒に踊りましょう～☆

「一緒に踊ったんだよ！みんな上手だったなあ！」と、とても楽しそうに、少し興奮気味に話してくださいました。

長田区理容組合のみなさんは、ふくろう新聞を毎月、読んでくださっているのだそうです。

「帰りの車の中で、『入所のみなさんの笑顔に逆こちらが元気をもらえたね！本当に感激したね！』とみんな話していたんですよ。」と尾長谷さんは言ってくださいました。

明るくて優しい笑顔のあじさい連のみなさん、ぜひひ、また踊りにいらしてください。

柴山ハウスで誕生会



▲入所者・職員一緒になって準備

月川ユニットに入所されている柴山貞子様は、ご病気のため現在は寝たきりの状態で一日をベッド上で過ごされる事がほとんどです。

施設内の行事を見学されることがあっても、外出されるには難しいことも多くあります。

柴山様が暮らされていた家を「柴山ハウス」として、お借りしていることもあって、90歳の誕生日のお祝い帰省を計画しました。

同じユニットには2月に誕生日を迎えられる方が多くいらっしゃることもあって、「柴山ハウスで誕生会を開き、皆さん一緒にお祝いをしよう」と職員が提案したところ、賛同していただ

けました。

参加される方に食べたい物の希望を尋ねると「寿司や手巻きじゃなくて握りずし」という返事が揃って返ってきました。お祝いごとにお寿司を食べることは昔からの定番なのでしよう。

また、以前より「カニが食べた」との希望もあったので寒い時期に温まっていたかどうかと「カニ鍋」も準備しました。

柴山ハウスに到着後、入所者・職員が力を併せて準備にかかりました。

嬉しいことに柴山様のご家族からケーキの差し入れをいただき、参加者から自然と笑みがこぼれました。

ケーキに立てたローソクの火を吹き消すのは、当日、85歳の誕生日を迎えられた伊藤照子



▲五色町の我が家縁側で。(柴山様)

様。火が吹き消されると皆さんから拍手が起りました。

参加者の一人、辛島シツカ様からは「ふくろうの郷の外での誕生会は初めて。また来年も来たいです」とおっしゃっていました。

柴山貞子様ご本人から感想をいただくことはできなかったのですが、ご家族、入所者、職員、心と体の両方が暖まる誕生会を行えたかと思えます。

改めて柴山様にこの場所を提供していただいたこと、今回の会に参加していただいたこと、重ね重ね御礼申し上げます。ありがとうございます。(生活援助員：神代)



▲入所者一人ひとりにあった企画を今後も考えます。

リレーエッセイ

評議員・岩本吉正

昨年9月から新しく評議員を任せられました岩本吉正です。

たつのころうあハウスでサービス管理責任者を務め、利用者さんのニーズに合わせて支援しています。

「ふくろう新聞」第1号から読み続けています。入所者の方々の入所されてからの変化、笑顔が、とても素晴らしく一人一人が自分らしく元気に暮らされていることが伝わります。

以前に、たつのこに通っておられた方が淡路ふくろうの郷に入所され、淡路ふくろうの郷へ遊びに行くたびに必ず彼女の様子を見に行きます。元気で明るく楽しそうに暮らされている姿を見て、ふくろうの郷は素晴らしい施設であり、一人一人を尊重された介護支援をしていて、建設運動を諦めずにみんなで力を合わせ頑張っていると思えます。

現在、たつのこの課題は、仲間の親が高齢化し将来を心配される相談が増えて

いることです。

生活の場であるグループホーム事業の実施に早く取り組んでいかなければなりません。障害福祉サービス事業所として地域資源を活用しながら、地域での連携した支援体制を目指したい

ところですが、聴覚障害者のための地域資源は少なく、ホーム事業開設にも資金・人材不足の壁があります。課題をひとつひとつクリアしながら、今後も、もっともっと重複聴覚障害者に対する理解を行政と地域に広め、仲間一人一人のより豊かな生活を目指して頑張っていきたいと思います。



▲たつのころうあハウスにて。岩本さん(写真中央)

地域を語る

第27回

宝珠山・光照寺について

(中川原町中川原)

住職 笹津寛照

中川原地区中心の見晴らしの良い小高い丘の上、大屋根の見事なお寺が光照寺である。

当寺はもともと先山千光寺にあつた堂宇・仏像を寛永年間(一六二四〜一六四四)に現在の中川原町中川原に移した寺院と伝えられており、本尊は高さ二尺あまりの木彫の大日如来である。

この本堂は淡路四国八ヶ所番外霊場となつており、淡路の寺院様式を今に伝える貴重な作りで寺院と集会所とを兼ねており、現在では全国でもこの様なお堂は珍しい。

本堂西にある薬師堂は淡路薬師四十八番霊場で「馬落薬師」の名で知られている薬師如来を安置してある。

この地はかつて岩屋と福良を結ぶ主要な街道であつ

たが、薬師堂の前を馬に乗つたまま通行しようとする者が不思議とよく落馬する。これは薬師如来のおとがめに違いないと考え、通行の際には下馬をして手を合わせたと言う。

また一説には天正十年(一五八二)三好存保と言う武士が織田信長の命で四国の長宗我部元親を攻める際に、ここで落馬し病んだので薬師如来を安置し病平癒を祈願したとも伝えられている。

春には境内の桜が見事に咲き、心癒されるその風景は自然と合掌をしてしまふ。

ご詠歌
ただ頼めこれや二佛の中川原
周路晴れ行く瑠璃の流れを



▲光照寺の絵図。(味地草より引用)

ひな祭りのレクリエーション



▲完成して微笑む寺岡様(色紙作り)

ひな祭りにちなんだ行事を今年も2つ行ないました。

2月の作業講座では色紙を用いて「ひな飾り」を作成しました。仕上げに地域交流会会長の北岡様が入所者に言葉を書き添えていただきました。

3月3日、牛乳パックでひし形の型を作り「ひな祭りの押し寿司」をボランティアで来ていただいた手話サークル津名の渡辺みずほ様と一緒に行いました。お雛様の顔はウズラの卵で作成し、かわいく仕上がりました。



▲高橋様(押し寿司作り)

書籍のご案内 5月28日 発行予定

淡路ふくろうの郷 開所5周年記念誌

『地域で生きる暮らしをつくる』

～負けへんで～
Vol. 4 ー淡路ふくろうの郷物語ー



B5版 DVD付 約200ページ

頒価
1,500円

予約申込受付中!

申込は
淡路ふくろうの郷まで。

おひなさまのステンドグラス



法人HPでは、カラー写真でご覧いただけます。

入所者の井上知子さんの弟さんがとてもかわいらしいおひなさまのステンドグラスをプレゼントしてくださいました。井上さんからは今までも「森の中のふくろう」「クリスマスリース」、2つの作品をいただいています。

優しい彩色ガラスの光に私たちの心はいつも癒されています。